

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 構造的心疾患における心エコー検査の有用性における研究』

研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院

研究責任者 循環器内科 職位・氏名 教授 原 英彦

【試料・情報の利用目的】

構造的心疾患(弁膜症疾患や心房中隔欠損症、動脈管開存症、左心耳内血栓症など)に対するカテーテルを用いた治療の適応が急速に拡大していますが、今後さらなる高齢化が進む現代では、安全性の高い治療方法が望まれます。治療には海外のデバイスが使用されるため、体格の小さい日本人にとって最適なデバイスサイズは異なっている可能性があります。構造的心疾患の診断、治療後の観察には主に心エコー検査が用いられます。東邦大学医療センター大橋病院循環器内科では、構造的心疾患のスクリーニング、治療適応、治療後のフォローにおける心エコー検査の有用性を検証することを目的として本研究を計画しました。この研究によって日本人における構造的心疾患の診断や治療選択に関する研究が進むと考えられます。

【他機関への提供】

他機関への提供は行いません。

【研究に用いられる試料・情報】

情報: 患者背景(年齢、性別など)、病歴、診療の治療歴、予後データ(死亡、心不全再入院、脳卒中など)、画像データ(心電図、CT、MRI、心エコー)など

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など、個人を特定できる情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できる情報を報告・公開することはありません。

【試料・情報の利用または提供を開始する予定日】

2024年12月より利用を開始します。

【試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名】

外部への試料・情報の提供は行いません。

【試料・情報の取得方法】

この研究は、東邦大学医療センター大橋病院の倫理委員会の承認を得て実施するものです。

対象者: 2011年1月～2027年3月までに東邦大学医療センター大橋病院で構造的心疾患の診断もしくは治療のために心エコー検査を受けた方

方法: 診療録(カルテ)、血液検査、画像検査等を集積し、イベントの発生(死亡、心血管病、脳卒中、デバイス関連合併症など)と心エコー指標との関連を解析します。

【研究組織】

代表施設名: 東邦大学医療センター大橋病院循環器内科

研究代表者: 原 英彦 役職: 教授

【利用する者の範囲】

東邦大学医療センター大橋病院単一機関でのみ利用させていただきます。

【試料・情報の管理について責任を有する者の名称】

東邦大学医療センター大橋病院循環器内科 原 英彦

本研究に関してご質問のある方、試料や情報を研究に利用することを承諾されない方は、2025年3月までに(過去に採取した既存試料を利用する場合)下記へご連絡下さい。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。尚、患者様ご自身がこの権利を行使できない場合(認知症等で訴えが困難あるいは既に死亡されている等)、代諾者の方(研究対象者の3親等以内の近親者あるいは法的な後見人)が診療情報等を研究することを承諾されない場合も下記までご連絡ください。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大橋病院 循環器内科

職位・氏名 教授 原 英彦

電話 03-3468-1251 内線 7122